

読売理工医療福祉専門学校

2019 年度自己点検評価に関する評価報告書

2020 年 9 月 8 日

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員会による2019年度自己点検評価に関する評価報告書

2019年度自己点検評価に関する評価報告書は、学校が、卒業生・保護者・地域住民・企業役員等の関係者を委員により構成された学校関係者評価委員会により、「学校が実施した2019年度の自己評価結果の報告」に対する評価を依頼した。

委員は以下の項目について評価し、教育活動と学校運営の改善に向けて学校に助言する。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

2. 学校関係者評価委員会委員

- ・渡部俊一：OB・理工専校校友会会長
- ・米田尚美：保護者・放送映像学科2年
- ・湯浅孝雄：地域住民・慶応仲通り商店会・会長
- ・中村孝之：団体等・日本建築衛生管理教育センター
- ・羽場宏祐：企業等・放送映像学科
- ・鹿毛信一：企業等・建築系学科
- ・小嶋 守：企業等・電気電子学科
- ・伊藤大輔：企業等・臨床工学系学科
- ・大庭尚子：企業等・介護福祉学科

(敬称略・順不同)

3. 自己点検評価に関する評価（評価点：5点満点） 全体評価 4.38

評価に関して5段階（5＝申し分ない・4＝十分である・3＝標準的・2＝努力を要する・1＝不十分である）としている。設問24については総合評価ならびに教育活動・学校運営に関して忌憚のないご意見の記入とした。

[1] 2019年度の取り組みに関する意見

(1) 教育理念・目的・育成人材像等 (4.63)

- ・ 専門学校なので、専門分野の知識と技術をしっかりと身につく事が大事であり、同時に社会人としての人間性を身につけるような教育方針があるといいと思う。
- ・ 読売理工学院の持つ強みや教育目標、数値目標をもっと明確化するように欲しい。
- ・ いま、そしてこれから益々必要な人材をただ知識教育するだけでなく、豊かな人間性を育てようとしているのは素晴らしいと感じる。
- ・ 改善方策に掲げられているカリキュラムマップによる「学び方」や「関連科目」の明確化は、在学生にとって知識・技術を習得するための道標となり、その教育効果も期待できることから、非常に良いことだと思う。
- ・ 年々充実してきているように感じる。

(2) 学校運営 (4.63)

- ・ 入学者数順調、退学率の改善には特に留学生に対する語学および人間性の育成方法が必要
- ・ 移転という大きな事業をスムーズに行えた事が素晴らしいと思う。

- ・ 学校の経営層、教職員が一体となってしっかり運営されていると感じます。
- ・ 新校舎移転に伴い、教育機材も一新され、組織の運営面、地域社会との連携、コンプライアンス等の面においても適切に運営されること期待する。
- ・ 予定人員に達している学科も多く、安定していると感じる。

(3) 教育活動 (4.38)

- ・ 社会の第一線で活躍している専門家の特別講義、実習の実施、またインターンシップ等へ積極的に実践教育をしている。
- ・ 教員の研修を積極的に実施して欲しい。また、教員間の交流も必要。
- ・ 専門性や学生のモチベーションを高めるため、企業見学や実習をより強化してもらいたい。
- ・ 学生への指導内容は概ね良いと評価できる。最新技術を学生に教えるため教員の研修時間増、レベルアップは急務と考える。
- ・ 3月のコロナ禍に関して、次年度の授業について工夫が必要と思う。先生方や学生さんたちの信頼関係は強いと感じるので、必ずや乗り切れると思う。
- ・ 教育活動全体としては、適切に取り組まれていると思うが、課題として前年度も挙げられていた「専任教員の研修時間の確保」が引続き挙げられていることが気になります。
- ・ 授業にも工夫しており良いと思う。

(4) 学修成果 (4.0)

- ・ 資格の取得は、学生や保護者が1番わかりやすい成果なので、国家資格に限らず、関連資格はなんでもとるようにしていけばいいと思う。
- ・ 国家試験の合格率は高く評価できる。退学者の基礎学力の問題は入試選抜段階でのハードルを少し上げることが時には必要だ。
- ・ 課題として「退学率の低減」が挙げられるが、本年度(2020年度)上半期の退学率は、対前年度と比較して改善されており、昨年度の自己評価が生かされた結果だと思う。
- ・ 各学科の資格試験の合格率もよいと判断できるが、更に気を抜かず努力して欲しい。
- ・ コミュニケーション能力を引き上げるよう工夫が必要。
- ・ 全体で高い就職率を示しているが、留学生の教育カリキュラムの最高が必要。

(5) 学生支援 (3.88)

- ・ 経済面のカバーのために、支援金の適用校になったのは素晴らしいと思う。それを内外に広くわかりやすく認知してもらおう事が大事だと思う。
- ・ 進路、就職支援体制は高い評価で良いです。卒業生と現役生のコミュニケーションなどの機会を増やしてはどうか。
- ・ 制度上できることが限られるのですが、もう少し支援の幅や対象の見直しや工夫をもらいたい。
- ・ 自己評価で「やや不適切」と判定された「保護者との適切な連携」に関して、改善方策では何も触れられていない。さらに検討をして改善して欲しい。
- ・ 今回は退学者が減少傾向にあるようです。今後も努力を期待しています。
- ・ 学生へのさらなる支援には人的余力が必要。

(6) 教育環境 (4.38)

- ・ 来年度は新校舎ができ、交通の便や環境面は楽しみだ。

- ・ 学生には新校舎での最新機器を有効に使う工夫をして欲しい。学科共通のラーニングコモンズのようなものがあるといいのではないか。また、今後予想されるコロナ禍で自宅のPC環境が整っていない学生向けに個人PCの必携化も検討されたい。
- ・ 新校舎への移転、実習機器更新時期の繰り上げ更新により、教育環境は飛躍的に改善されると思う。
- ・ 今後、新校舎への移転等もあり改善を期待したい。
- ・ 新校舎に移転予定
- ・ 文京区への移転を期待しています。

(7) 学生の受け入れ募集 (3.88)

- ・ 各科の募集はいい結果が多いが、臨床工学科の募集の為に、紹介の動画を作るなど、SNS環境の強化を行うといいと思う。
- ・ 2019年度募集は良い結果のようですが、入学者目標500人まではもうひと踏ん張り必要なようです。他校が行なっている電車内広告など行なうと効果的ではないでしょうか。
- ・ 新校舎の影響で多少昨年より多い。
- ・ 前年度募集結果からAO日程を見直すなど、学生の受け入れ募集に積極的に取り組んでいることは評価したい。
- ・ 定員に満たされている学科も多いのですが、まだ定員に至っていない学科もあるので対策が必要と考える。
- ・ 留学生が増えているが 日本人も増やす努力をもっとしてほしい。
- ・ このコロナ禍で難しい局面もあると思いますが、頑張ってもらいたい。

(8) 財務 (4.5)

- ・ 新校舎への正しい出資を行う事で、今後の経費の抑制に繋がると思う。また入学生の確保と在校生の離脱者の削減で、経費の安定化をはかる事が大事かと思う。
- ・ 定員充足率、退学率をさらに改善できればさらに財務基盤は安定すると思う。
- ・ 今後の改善方策として唯一挙げられている「学費収入以外の事業収入の増収」は、学校経営にとって有効な手段であると思うが、本来あるべき「学費収入の増収による安定経営」のために、学生にとって魅力的な「教育活動」、「学校運営」となるよう、この自己点検評価制度が活用されればと期待する。
- ・ 良い状況だと思う。

(9) 法令等の遵守 (4.38)

- ・ 最近よく聞く、職員の有給や残業といった労務管理がしっかり出来るといいと思う。
- ・ きちんと遵守されていると思う。
- ・ 留学生の受け入れ態勢を積極的に整備し、入管法、文科省通知等の関係法令を遵守し、適切な留学生の在籍管理を実施されており、自己評価の中でもそのことを明確に記すべきではないかと思う。
- ・ 評価している。

(10) 社会貢献・地域貢献 (4.13)

- ・ 新しい地域での活動のために、地域のイベントや集まりに積極的に関わる事で地域に貢献する事が大事であると思う。

- ・ 春日はまだこれからなので地域貢献は難しいかもしれないが、三田では学園祭の時など地域と盛り上がっていた感じがするのでそうならいてほしい。
- ・ 移転後の地域貢献の盛り上げに期待する。
- ・ 自己評価で「やや不適切」と判定された「学生のボランティア活動の奨励、支援」に関して、改善方策では触れられていないが、読売グループとの関係性を強みにした近隣地域と学生のボランティアの方々のコミュニケーションがよく取れていると感じる。対応方策を検討されればと思う。
- ・ 三田では地域商店街との交流があつて非常良かった。移転後も積極的に交流の機会を作ることが大切。
- ・ 文京区との連絡取り合う関係があると聞いて、防災対策も考えていると聞いて、非常に良いことと思います！
- ・ 教育文化を中心とした町作りが必要です。地元との協働を推進。

【2】学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果について

- ・ 移転という大きな事業の中で、しっかりと教育や就職のサポートを行えた事がとても素晴らしいと思う。除籍退学率を下げるために、より学生と向き合えるといいと思う。
- ・ 数値的な目標や成果をもっと出してもらえればより説得力があると思う。概ね良い評価のようなので良かったのではないかなと思う。
- ・ 申し分ないと思う。
- ・ 昨年度も課題として挙げられていた「卒業生の動向把握」は、卒業生や就職先企業の協力が得られなければ難しいとは思ふ、より良い教育の在り方を検討する上で、卒業生の動向を把握することは大変重要な事項であり、校友会組織に依存することなく、学校としての取り組みを検討されたい。
- ・ 全体的に良く、安定してきたと感じる。
- ・ 留学生への日本語教育の実施。除籍・退学者へのこまめな連絡等で減少している。尚の努力を期待する。

【3】2019年度に関する意見と、教育活動・学校運営に関して忌憚のないご意見

- ・ とても健全に教育活動や運営がなされていると思う。臨床工学科の卒業生としては、臨床工学技士の教育内容や就職後の仕事内容を、もっとアピールして頂き、たくさんの上学生及び卒業生を出して頂けたらと願います。
- ・ 各学科が独立しすぎている感があり、もう少し他学科との連携や共通授業などを増やして行くと読売理工学院ならではの特徴が出てくると思います。
- ・ 各評価項目ともに適正に判定され、その結果から改善方策が導き出されており、自己評価制度が、教育の質の向上及び学校運営の改善のために適切に機能していると思います。
- ・ とても良いと思っておりますが、世の中の変化も今後あると思つて変化に対応して頂きたいです。
- ・ 実際の建設現場での教育の充実が必要。見学会等に積極的に場を提供します。
- ・ やはり留学生たちの言葉の問題解決をこれからも考えていく方向で進めていただきたいと思いました。
- ・ 読売式教育メソッドの効果が出ている。特に人間力、コミュニケーション力のさらなるブラッシュアップをお願いします。

5. 2020 年度の重点目標

2020 年度の重点目標は以下としたい。

- ・ 新型コロナウイルス感染に対しての感染予防策に努め、学生・教職員の安全を確保す
- ・ 除籍退学率 10%以下を目標として学生の指導にあたる。
- ・ 感染予防に務めながら、本校特色である実践的教育の質を確保する。

6. まとめ

今回の評価で委員の方々からいただいた意見・提案は、「2020 年度の間評価に対する意見・提案」と合わせ、来年度の学校運営・教育内容に反映させていく。

以上